

令和3年11月18日

## 令和3年度 日本YEG 下半期活動計画

日本商工会議所青年部  
会長 吉川正明

今年度の上半期は、昨年度から続いた新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、また、夏には変異株の影響で、更に感染が拡大するという事態となり、なかなか通常運転ができない中ではありましたが、オンライン研修事業や企業視察、外部企業との事業連携や単会マッチングなど、オンラインの積極的活用と新たな取り組みの数々により、これまで、FOR ALL YEGというスローガンにふさわしい事業を、各委員会が中心となって構築してまいりました。

その事業のひとつに、全国会長会議第3部「三村会頭の講演会」がありましたが、その講演の中で、三村会頭が以下のようなことを述べられました。

### <三村会頭の講演内容（要約）>

コロナ禍によって変化した世の中に対応していくのは、大企業よりも小回りの利く中小企業。しかし、チャンスは待っているだけでは訪れず、自らが積極的に動く行動こそが必要である。「コロナは階段の途中にある踊り場のような役割を果たす。踊り場とは階段を上って一息つくところである。我々はこれまで息を切らして進んできた。そこで思いがけずコロナに遭遇した。そして、コロナから多くのことを学び、危機感を共有したが、ここで一息ついて、冷静にこれから何をすべきか、それぞれの立場で考えなければならない。

1. 中小企業の最大の課題である生産性の向上により企業体力を増進させることは必要不可欠である。その際には、デジタル技術の徹底的な活用が極めて有用である。
2. 今まで国内マーケットに依存してきたため、海外マーケットを自社の成長に活かしていない。今後は成長するマーケットにアクセスし、海外進出を図ることも試みる必要がある。
3. 渋沢栄一翁の「私益と公益」の両立。これが今後のレジリエンスのベースとなる考え方となる。ESG投資、SDGs、カーボンニュートラルなど、経済と環境を両立させ、様々な社会課題に対し、一定の成果を出しながら利益を出す。このような経営が、長期的な成長を遂げるために必要不可欠である。

企業経営者は、コロナから脱出するためのレジリエンスの体現者として、コロナの与えた踊り場に立ち、自らの企業の存在理由を問い、多くの社会課題に理念のみならず「具体論」として正面から向き合い、日本の成長を主導するという決意をもって行動していくことが求められている。

そこで、下半期は、当初掲げたスローガンや運営方針を基に、上記の三村会頭のメッセージを踏まえて、これまで以上に全国のYEGメンバーの成長に貢献していくため、「ビジネスの成果」と、「YEGの更なるブランディング」、これらを意識して以下の活動も積極的に行っていく。

- これからの中小企業経営に必要な、「デジタル化の推進」や、「海外展開・海外活用」、「サステナブル経営（SDGs・カーボンニュートラル）」等に向けた情報発信と、内外へ向けた提案・提言
- 経済産業省、環境省、デジタル庁、親会（日本商工会議所）などとの更なる連携と共創
- 全国のYEGメンバーの交流促進によるビジネスマッチングの創出
- アフターコロナ・ウイズコロナ社会を生き抜くための経営ノウハウの獲得

令和3年度の活動が、全国のYEGメンバーの更なる成長に貢献し日本を元気にしていく、そのような想いをもって、この下半期も手綱を緩めることなく走り続けます。引き続きよろしく願いいたします。